

「第2期宮城県食育推進プラン」(仮称)構成(案)について

項目	第1期計画	第2期計画	修正点
計画の趣旨等	1 計画策定の趣旨 2 計画の位置づけ 3 計画の期間	1 計画策定の趣旨 2 計画の位置づけ 3 計画の期間 4 計画見直しの概要	◆「計画見直しの概要」を追加。第2期プランにおける変更の視点やポイントを記載
現状	【本県食育の現状】 1 食生活の変化 ①朝食の欠食 ②外食利用者の増加 ③子どもの食事環境 2 食に対する嗜好の変化 3 食生活に関する意識 4 食に関連する健康上の課題 ①肥満者の割合 ②3歳児のむし歯数及び有病者の割合 5 地産地消の取組	【本県食育の現状】 1 食生活の変化 2 食に対する嗜好の変化 3 食生活に関する意識 4 食に関連する健康上の課題 5 地産地消の取組	◇継続 今年度実施する「県民健康・栄養調査」の結果等から、本県の特徴を把握できる項目を記載
食育の目標等	【食育推進の基本目標】 ◇県民一人ひとりが、食を生きる上での基本としてとらえ、健全な食生活と心身の健康増進を目指します。 ◇多彩で豊かなみやぎの食材の理解と食文化の継承を通して豊かな人間形成を目指します。 【食育推進の視点】 1 健全な食生活に必要な知識の習得と実践能力の育成 2 家族や友人との食事を通した食べる楽しさの実感 3 地産地消や体験活動等を通した「食材王国みやぎ」の多彩で豊かな食材の理解 4 宮城の風土や地域に培われてきた食文化の継承 5 食の安全安心を通した消費者・生産者・事業者の信頼関係の構築 6 多様な機関の連携・協力による食育の推進 【食育推進の目標】 1 食生活の変化 2 食生活に関する意識 3 食に関連する健康上の課題 4 地産地消の取組 5 食の安全安心 6 食育の推進	【食育推進の基本目標】 ◇県民一人ひとりが、食を生きる上での基本としてとらえ、健全な食生活と心身の健康増進を目指します。 ◇多彩で豊かなみやぎの食材の理解と食文化の継承を通して豊かな人間形成を目指します。 【食育推進の基本方向】 1 健全な食生活に必要な知識の習得と実践能力の育成 2 五感を使って健やかな心身を育む食育 3 宮城の風土に育まれた食材・食文化の理解 4 安全安心な食品の安定供給と関係者間の信頼関係の構築 5 多様な機関の連携・協力による食育の推進 【食育推進の目標】 === 目標指標: 関係課と調整の上、決定 ===	◇前期プランで設定した本県食育の理念となる基本目標は変更せず引き継ぐ。 ◆項目名を変更: 記載されている内容に合わせて、項目名を変更する。 ◆現プランの「2 …食べる楽しさの実感」と「3 体験活動を通した…」について、施策内容に重複部分があり、区分が難しいため一本化 ◆現プランの「3 食材理解」と「4 食文化の継承」を統合。本県の食の特徴に関する項目として集約 ◆食の安全安心に係る重点施策の内容に沿った文言に変更 ◇一部変更の上、継続 本県として特徴的な課題を目標指標として設定する。また、各分野での取組の現状が反映されやすい指標とする。
重点施策	【重点施策】 1 食育を通した健康づくり ①生涯を通した健康づくり ②健全な食生活の実現 2 五感を磨く食育 ①楽しく食べる環境づくり ②豊かな心を育む食育の推進 3 「食材王国みやぎ」の食を通して実感・体感する食育 ①地産地消の推進 ②地域(生産者・食品関連事業者等)との連携推進 ③食文化の伝承 4 食の安全安心に配慮した食育 ①安全で安心できる食品供給の確保 ②食の安全安心に係る信頼関係の確立 5 みんなで支えあう食育 ①食育支援ネットワークの構築 ②食育推進体制の整備	【重点施策】 1 食育を通した健康づくり ①生涯を通した健康づくり ②健全な食生活の実現 2 五感を使った食育の推進 ①楽しく食べる環境づくり ②体験を通じた食育の推進 3 「食材王国みやぎ」の理解と継承 ①地産地消の推進 ②食文化の伝承 4 食の安全安心に配慮した食育 ①安全で安心できる食品供給の確保 ②食の安全安心に係る信頼関係の確立 5 みんなで支えあう食育 ①食育支援ネットワークの強化 ②食育推進体制の充実	◆文言の修正 ◆「基本方向」の変更により組み換え ◆関係者との連携は、「5 みんなで支えあう」に集約 生産者等と消費者の交流は「地産地消」の中で記載 ◆前記プラン策定により「構築」した体制をさらに推進するため文言を変更
計画の推進	【ライフステージに応じた食育の取組】 乳幼児期「食習慣の基礎づくり」 学童期「望ましい食習慣の定着」 思春期「自律に向けた食生活の基礎づくり」 青年期「健全な食生活の実現」 壮年期「食生活の維持と健康管理」 高齢期「食を通した豊かな生活の実現」 【県民運動としての食育推進運動の展開】 1 食育に関する意識の高揚 2 地域で活躍している多様な人材の活用と支援体制整備 【食育の推進体制と関係者の役割】 1 推進体制の整備 2 関係者の役割	【ライフステージに応じた食育の取組】 乳幼児期「食習慣の基礎づくり」 学童期「望ましい食習慣の定着」 思春期「自律に向けた食生活の基礎づくり」 青年期「健全な食生活の実現」 壮年期「食生活の維持と健康管理」 高齢期「食を通した豊かな生活の実現」 【県民運動としての食育推進運動の展開】 1 食育に関する意識の高揚 2 食育推進関連団体等、多様な関係者による支援体制整備 【食育の推進体制と関係者の役割】 1 推進体制及び進行管理 2 関係者の役割	◆ネットワーク化の推進や関連団体等の具体的な取組を明確にするための変更 ◆プラン進行管理についての記載を追加

見直しの視点

食をめぐる状況の変化

- 食生活の変化
- 食生活に関する意識
- 健康上の課題
- 地産地消の取組
- 食の安全安心
- 食育推進体制

第1期計画に対する評価(目標達成状況)

- 目標指標 6分野、18項目
- 達成状況
目標達成: 2項目
ほぼ達成(達成できる見込み): 7項目
達成困難: 2項目
評価不能: 7項目
- 達成困難な項目
・朝食を欠食する県民の割合(小学5年生)
・交流施設の開設箇所数

推進会議委員意見

- 宮城県の特徴が見える取組への絞り込み
- 地域における関係者の連携強化
- (子どもの朝食欠食・肥満について)家庭へのアプローチ強化
- 食育の実践が進む体制の整備
- 目標指標は、数値だけでなく、質を問うことも検討すべき。
- 実態が反映される目標指標の設定を

<参考> 県民意識調査の結果

- 食育への関心は高い(85.3%)が、自己評価は低い(48.5%)
- 食生活の改善意欲は高い(82.6%)
- 若年層(特に男性10~20代)の朝食欠食率が高い
- 食事の適量摂取は、H17から低下し(76.5%)、目標値-9%
- 野菜の目安量は、H17から横ばい(43.1%)。目標値-17%
- 男性30歳以上肥満者の割合は、H17から横ばい
- 女性10代で、過度の痩身が33.3%